

# ホームルームにおける一考察

## ～ クラスで取り組むインターンシップ ～

東京都立田無工業高等学校  
建築科 山本 進一

### 1 はじめに

私は7年前に初任者として都立小石川工業高等学校に配属され、現在2校目である。大学卒業後、民間企業に8年間在籍したが、一念発起して工業科（建築）の教員となった。

会社には大学や高専から新入社員が毎年入社してくる。当然、まだ仕事はできないのだから、元気良く挨拶ができ、先輩の話をしっかり聞いて、その場の状況を考えて行動できる人であれば、特に問題はない。しかし、年を追うごとに基本的な生活習慣が身につけてない、挨拶ができない、協調性がないなどコミュニケーション能力が低い学生が多くなってきたと感じていた。

20歳を過ぎた大人である大学生ですら、このような状況であれば、高校卒業と同時に会社に入る子どもたちには、基本的な生活習慣やコミュニケーションの取り方などを、しっかりと教えていく必要があると思った。


### 2 東京の高校生

私は東京に生まれ育ったが、大都市で他の地域に比べて近所付き合いや周囲との関係が希薄だと言われる。身近にいる大人は親などの保護者と学校の教員だけ、という生徒も多くいる。

そのような数少ない大人から得られる社会や会社、仕事に関する情報は限られていてもおかしくない。

表1 学校経営計画の進路指導

1年	・2者面談の実施
2年	・インターンシップ（数名） ・3年生による進路ガイダンス
3年	・卒業生による進路ガイダンス ・3者面談の実施 ・1学期中に進路選択の決定



また、東京の子供たちには、多様な価値観や情報量が多いと言われる。一部の生徒を除けば、卒業後も親元にいることで生活ができて、若いうちには数あるアルバイトで生計も成り立つようなケースも少なくなく、勤労観や職業観が薄いと言われる。

私は工業高校に通う生徒は、専門高校生として、働くことや仕事に対して理解を深めるために、大人社会からもっと刺激を受けるべきだと考えていた。


### 3 学校の進路指導

東京都ではインターンシップを推進しており、平成16年に都立六郷工科高校に開設したデュアルシステムを除いて毎年各校で数名が就業体験を行ってきた。経験した生徒の話を聞くと、ほとんどの生徒が「やって良かった」「会社や社会を理解できた」と言う。当時、学校で計画した進路指導の概要を示すと、表1のとおりである。

この計画では、もし2年次にインターンシップを実施しなければ、3年の1学期まで進路に関して生徒が主体的に考える活動が本格化できない。学習指導要領の総則には「就業やボランティアにかかわる体験的な学習の指導を適切に行うようにし、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観、職業観の育成や社会奉仕

表2 クラスの進路指導

1年	・退職した教員やNPO法人職員などの大人から話を聞く機会 ・早い時期から現場見学会などに参加 ・2者3者面談により進路目標の設定
2年	・進路に関するHR活動で経験したい職業を検討 ・ <b>全員でインターンシップ</b> ・3年生による進路ガイダンス ・2者3者面談により現状の確認
3年	・卒業生による進路ガイダンス ・3者面談で進路の最終決定 ・1学期中に進路選択の決定



の精神の涵養に資するものとする」とあることから、私はクラス全員でインターンシップを含む進路活動をすべきだと考え、表2のような計画でた。

2年次にクラス全員にインターンシップを実施するために、生徒と保護者に説明を行い、理解と協力を求めた。

生徒自身がチャレンジしたい職業や会社について、自ら考え、自ら選択することが重要であると考えたからである。

#### 4 インターンシップの実施

2年次の夏季休業中を利用して建築系に就職または進学を考えている生徒全員を対象にインターンシップを実施した。

期間は企業の都合などを考えて、いずれも3日から一週間程度と設定した。

なお、建築以外の進路を検討している生徒に対しては、希望する専門学校や大学への体験入学や学校見学を実施するように決めた。

表3 インターンシップ等の内容

建築系就職・進学希望者 (インターンシップ)	建築以外の進路希望者 (体験入学・見学)
【25名】	【7名】
大工(工務店) ③	整備士系 ②
建設会社 ②	美術系 ①
設計会社 ③	動物系 ①
区役所営繕課 ①	外国語系 ①
建材メーカー ①	声優系 ①
介護施設 ①	工芸系 ①
保育施設 ①	
○内の数字は企業数	○内の数字は学校数

中には3つの職業を経験して進路の検討をしたいと申し出る生徒もおり、日程をずらして経験させた。

初日の生徒引率と最終日の挨拶には私が付き添ったが、日程が重なることがあったので、管理職の先生方に協力を仰いだ。

期間中に生徒たちの面倒を見て頂いた企業の方に「所見」と「評価」を記入していただき、それを見ながら実施後に生徒たちと話し合いをしたいと考えた。

#### 5 生徒の変化とその後の様子

インターンシップを経験した後、生徒にアンケートを実施し、企業からの所見を合わせて面談を行った。

すると、自分では誠心誠意、真面目に努力したつもりだったが、企業の担当者からは、そのように見えなかったと言われて、「自分なり」に努力するだけでなく、相手に自分の努力を理解して

もらえるように行動することが必要であると考えた生徒がいるなど、学校生活だけでは感じ得なかったことを経験し、私は改めてインターンシップの重要性と必要性を認識した。

生徒たちの中には、アルバイトでは経験できない仕事を経験できたことに喜びを感じた者、自分で考えていたよりも、ずっと大変な仕事だと理解できた者、会社の大人から自分の良いところや足りないところを教えてもらった者、選んだ仕事は自分には向いていると感じた者、またその逆もあるなど、自己理解を深め、社会性や職業観が持てたことで、それぞれの進路選択の大きな糧になった。

また、クラスで取り組むことで、周りの仲間から刺激を受けて、自己実現、進路選択の機会が増え、2年2学期以降の進路活動が活発となり、面談などで進路に関する具体的な話ができるなど、充実したものとなった。

#### 6 考察

建築系の会社に、短い間であっても就業することで自分に合う合わない、やりたいやりにくい程度は理解できると感じた。また会社組織について詳しく講義して頂いた企業もあり、勤労観や職業観の育成ができた。

建築以外への進路を希望した生徒たちも、それぞれ未知の分野について、自分なりに現実味を帯びて、方向性を持たせたと感じた。

#### 7 今後の課題

今年度、4月から2年の担任を任せられ、1年次からの進路計画は立てられなかったが、今夏のインターンシップを実施している。

前述のインターンシップでは、個々の生徒が充実した進路活動を行ったが、その経験や考えたことなどをクラスの仲間を紹介する機会がなかったことから、今後はクラス発表等を通してクラス全員に還元していきたい。

また、東京都で実施している授業研究ネットワーク「まなび」の特別活動部会でICTを活用したホームルーム活動の充実に関して研究を行っていることから、インターンシップなどの進路指導に焦点を当てて研究検証授業を実施する予定である。

今後も、専門高校生を指導する立場として、生徒たちに望ましい勤労観、職業観、社会性を育てる指導していきたい。